

改訂前

第7編 水域施設

第2章 航路

2.2 航路の性能規定
(略)

(1)・(2) (略)

(3) 水深
(略)

① 幅員の考え方

航路幅員は、利用漁船の利用実態に応じ、適切に定めることが望ましい。利用実態の把握が困難な場合には、図7-2-1を参考に定めてもよい。

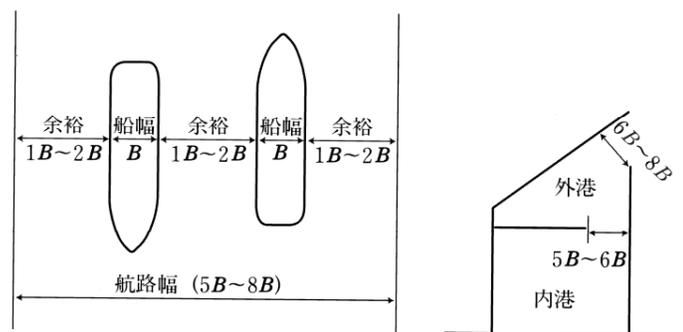


図7-2-1 航路幅員の考え方

② (略)

改訂後

第7編 水域施設

第2章 航路

2.2 航路の性能規定
(略)

(1)・(2) (略)

(3) 水深
(略)

① 幅員の考え方

航路幅員は、利用漁船の利用実態に応じ、適切に定めることが望ましい。利用実態の把握が困難な場合には、図7-2-1を参考に定めてもよい。

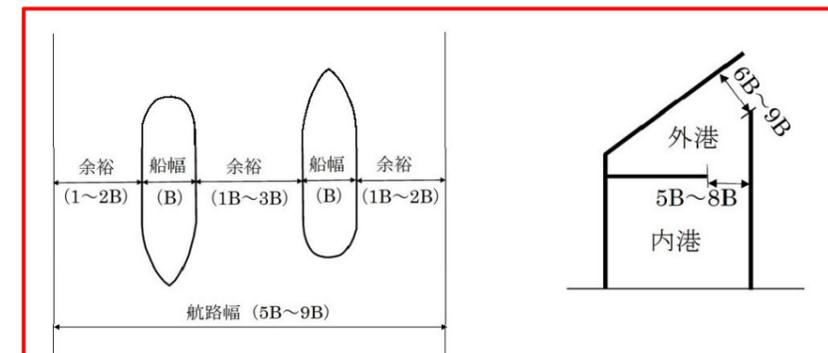


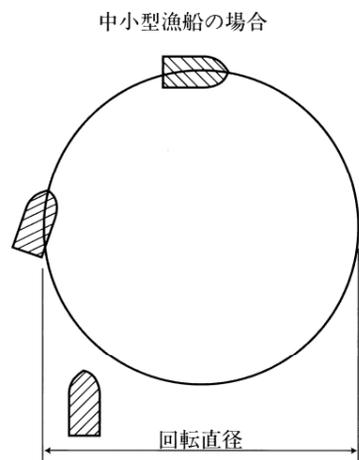
図7-2-1 航路幅員の考え方

② (略)

第3章 泊地

3.2 泊地の性能規定 (略)

- (1) 泊地の広さ及び形状は、安全な係留、停泊及び操船ができるよう適切に設定するとともに、必要な静穏度を確保することを原則とする。
泊地の広さ、形状の決定は、図 7-3-1 及び図 7-3-2 を参考に定めてもよいが、利用船舶の大半を小型漁船が占める場合は利用実態に応じて適切に定めてもよい。
- (2) 泊地の水深は、岸壁、物揚場及び利用漁船の諸元、波やうねり等の影響を考慮し、必要な水深を確保することを原則とする。



中小型漁船の場合
 静穏の場合船長の2~4倍=2L~4L
 風波を考慮した場合船長の3~5倍=3L~5L

操船用水面として必要な面積の考え方 (旋回)

- 1: 本船停止, 前進微速右かじ一杯
- 2: 本船前進, 後進微速左かじ一杯
- 3: 本船停止
- 4: 本船後進, 前進微速左かじ一杯

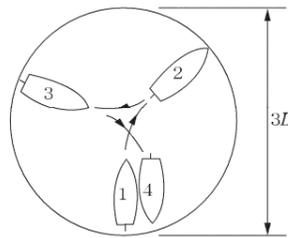


図 7-3-1 操船用水面として必要な面積の考え方 (船まわし)

第3章 泊地

3.2 泊地の性能規定 (略)

- (1) 泊地の広さ及び形状は、安全な係留、停泊及び操船ができるよう適切に設定するとともに、必要な静穏度を確保することを原則とする。
泊地の広さ、形状の決定は、図 7-3-1、図 7-3-2 及び 図 7-3-3 を参考に定めてもよいが、利用船舶の大半を小型漁船が占める場合は利用実態に応じて適切に定めてもよい。
- (2) 泊地の水深は、岸壁、物揚場及び利用漁船の諸元、波やうねり等の影響を考慮し、必要な水深を確保することを原則とする。

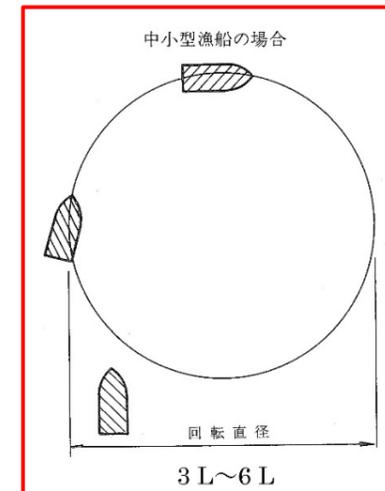


図 7-3-1 操船用水面として必要な面積の考え方 (旋回)

- 1: 本船停止, 前進微速右かじ一杯
- 2: 本船前進, 後進微速左かじ一杯
- 3: 本船停止
- 4: 本船後進, 前進微速左かじ一杯

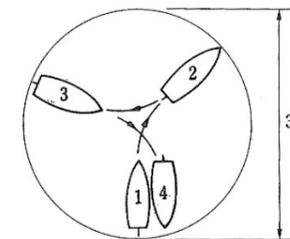


図 7-3-2 操船用水面として必要な面積の考え方 (船まわし)

改訂前

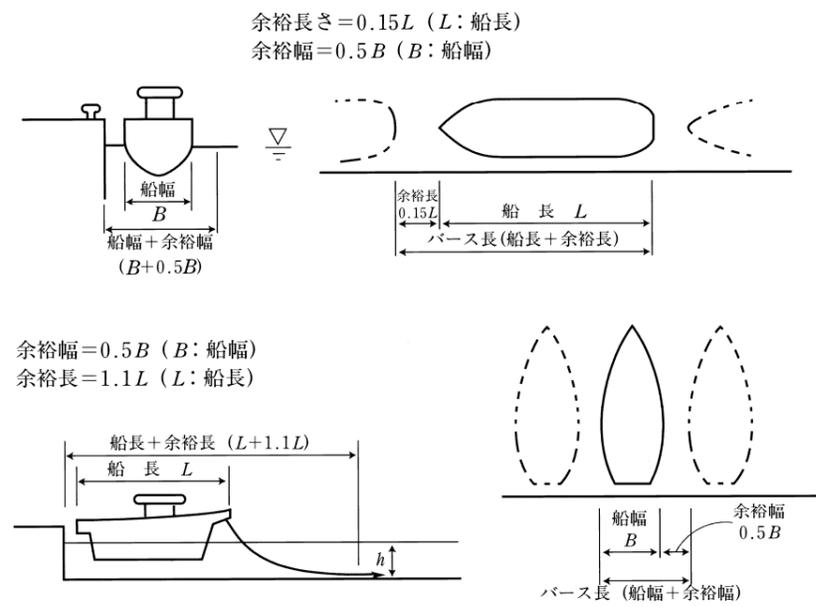


図 7-3-2 係留用水面として必要な面積の考え方

改訂後

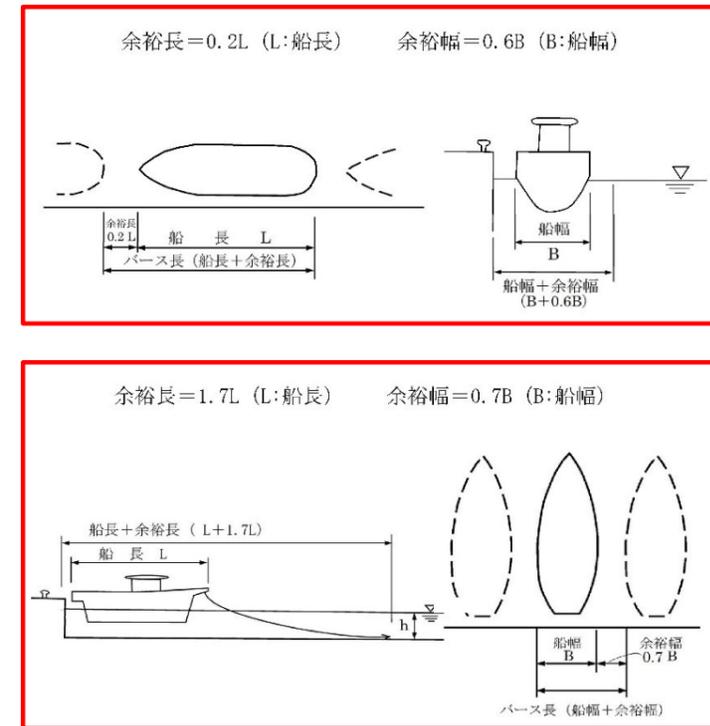


図 7-3-3 係留用水面として必要な面積の考え方